



イベント・シンポジウム等実績報告書

配分事業費：227千円

ユネスコ無形文化遺産
南音と古琴が紡ぐ中国古典音楽のコンサート&ワークショップ

目的・趣旨	海のシルクロードの玄関口、泉州で育まれた南音と、平安時代に日本にも伝来した古琴は、ともにユネスコ無形文化遺産に登録されている。本イベントは南音と古琴が紡ぐ中国古典音楽を広く地域に発信する。
日時・場所	令和7年11月15日 浜松市楽器博物館 天空ホール
体制	(実施代表者)文化政策学部 国際文化学科 教授 兪 嶸 文化政策学部 国際文化学科 教授 青木 健 文化政策学部 芸術文化学科 教授 奥中 康人
共催・後援等	(共催) 浜松市 (公財)浜松市文化振興財団

内容

イベントは、コンサートとワークショップの二部構成で、浜松市楽器博物館の天空ホールにて開催。
第1部では、本学文化・芸術研究センター長の奥中康人先生がイベント開催の経緯と意義について説明した後、南音伝承者の蔡雅藝氏、古琴奏者の陳思来氏、そして南音研究を行いながら琵琶奏者としても活躍する長崎大学の王維先生を含む3名の出演者によるコンサートを行った。
第2部では、来場者の皆さんは古琴や南音で使用される楽器に実際に触れて演奏を体験し、奏者の方々との交流も楽しんでいた。



結果・成果

本イベントは、ユネスコ無形文化遺産に登録されている中国伝統音楽の魅力を地域の方に広く親しんでいただくとともに、楽器の街としての浜松の魅力を中国の音楽関係者に発信することを目的として開催した。結果として、予想を倍以上上回る130名の方にご参加いただいた。また、イベント終了後に奏者自らSNSで浜松の魅力を発信するなど、PR効果も得られたと考える。
第1部のコンサートでは、各楽器や曲目の解説を交えながら、南音と古琴を代表する七曲が演奏され、来場者には、配布された演奏曲紹介文を手に取りながら、熱心に鑑賞する様子が見られた。第2部のワークショップは、想定以上の参加希望者が集まり、関心の高さがうかがえたため、当初30分の予定を1時間に延長して実施した。参加者は実際に古琴や南音で使われる楽器に触れて、その感触や音色を楽しんでいた。古琴の歴史や特徴について奏者に積極的に質問するなど、参加者と奏者の間で活発な交流が行われた。総じて、イベントに参加した皆さんは、鑑賞と演奏体験を通じて、中国伝統音楽への理解を深めるとともに、ワークショップでは奏者との交流も楽しんだことと思われる。

